

柎の木からの手紙

2023年 霜月 11月号



8日： 立冬

13日： 新月 旧 10月 1日

22日： 小雪

27日： 満月 旧 10月 15日

秋、気になるのは白鳥の南下と雪虫。

10月24日、二十四節季「霜降」の朝。初霜・初氷を確認しました。その日の午後、陽の光の加減で大量の虫がキラキラと舞っている。その中に近づいて確認すると白い綿毛の付いた虫が半分以上含まれている。雪虫の大量発生です。夏の高温と良い天気が影響しているようです。こんなに沢山の雪虫は初めてです。

30日、ビートの収穫中に北へ向かう5羽の白鳥を見ました。さすがに暖かくて戻ってきたのかな？ 暫く北海道で様子を見ようか？

31日漸くビートの収穫が終わりました。今年、褐斑病というビートの葉が枯れる病気が何処でも発生していて葉が枯れた後に新しい葉が出てくるためにビートの栄養が使われてしまい糖分が極端に低くなっています。10月中旬

の1回目のビートの出荷の平均糖分は12.4でした。

9月末に手で収穫した有機JAS赤ビーツも同様に糖分は低くなっています。

普通なら土をむきだしのまま冬を迎える畑。5月に萌える目に優しい林野の新緑の様に、越冬エン麦は10cm程に成長して有機JASの畑を薄緑色で優しく覆ってくれています。赤ビーツを収穫した部分はエン麦の播種時期より遅く作業する為、残念ですが土を露出したまま冬を迎えます。

